

# 平成30年度外部評価結果

外部評価委員会健康・栄養研究分科会

平成31年3月12日（火）実施

平成30年度 外部評価委員会 委員コメント

所長付		栄養疫学・食育研究部	
評点	コメント	評点	コメント
4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防に関して要点をおさえた研究活動などはフレイルに対する啓発の取り組みが意欲的である。</li> <li>・組織横断的な取り組みが評価できる。</li> <li>・研究連携に関してはベンチャー企業との共働が注目される。</li> <li>・HPにおける広報が優れている。</li> <li>・情報発信・社会貢献が旧部署から移管されているかたちになっているが、スムーズな移行が期待される。</li> <li>・始まったばかりの組織なので、今後の展開が期待される。</li> </ul>	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民健康栄養調査に四肢の筋肉量測定が追加され、審査方法が改善されている点が評価される。</li> <li>・健康日本21の推進に関しては、国調の結果の活用が評価できる。</li> <li>・食育に関する研究活動に関して、各方面に活動にわたる試みが行われている。食育というテーマの範囲の広がりがわかれる。</li> <li>・子ども食堂の研究活動は着眼点が優れている。</li> </ul>
5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンやタブレットへの発信など、幅広く検討しており評価できる。</li> <li>・各研究部の研究もあり研究量は多くなると思われるが、5研究室との連携が行え、幅広く深い調査研究が実施されていることは研究所ならではの活動であり、今後の成果が期待される。</li> </ul>	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民健康栄養調査より各データ分析が出来ており評価できる。</li> <li>・しょうゆ、みそのポーションサイズと血圧との関連の結果は興味深い。しょうゆ、みそ以外のポーションサイズその他の要因も多くあり、今回の結果のみが一人歩きしないような情報提供が重要と思う。</li> <li>・子ども食堂の必要性が一般に広く正しく確認されるような取り組みも検討されたい。</li> </ul>
4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだ始まったばかりであるが、論文数から判断するとそれなりの成果も出ている。</li> <li>・他の研究室との重複に注意が必要である。</li> </ul>	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みそ、しょうゆと血圧の関係はさらに検討を御願いたい。</li> <li>・スペイン、スリランカの研究は他の研究室で行う方が良い。食育研究室で行うには、今の中期計画のなかでは無理があるように思う。</li> </ul>
4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30年度からスタートとのこと、これからに期待したい。</li> <li>・所長直轄の動きの早さも期待したい。</li> <li>・「フレイル」の認知度というが、この手のキーワードにはいつも日本語で適した言葉は見つけれないのかと思う。</li> <li>・「幸福寿命延伸」は「健康長寿延伸」何が違うか。食品メーカーが目指しているものか。</li> </ul>	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随分幅広く研究、調査、結果解析をしていると感じた。</li> <li>・スピーディーなデータ解析から論文発表につながるよう御願いたい。</li> <li>・しょうゆ、みそのポーションサイズと血圧の関連は一日で比較するのではなく、総合的な食生活の評価につなげてほしい。</li> <li>・子ども食堂は民間任せではなく、食事内容、衛生管理面でも心配。もっと行政が動くような方向につなげてほしい。</li> </ul>
3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所長のリーダーシップに基づく活動が素晴らしい。</li> <li>・介護予防プログラムの早期論文化に期待。</li> <li>・迅速・効率的なフレイル評価法の確立に期待。</li> <li>・SDGsにもいち早く対応していることは高く評価できる。</li> </ul>	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しょうゆと血圧の関係のメカニズムについてはさらに掘り下げて解明してもらいたい。</li> <li>・分かりやすい情報発信で成果を普及・社会実装してもらいたい。</li> </ul>
4.0		3.8	

平成30年度 外部評価委員会 委員コメント

身体活動研究部		栄養・代謝研究部	
評点	コメント	評点	コメント
5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体活動が検査所見及び自覚症状に影響するというエビデンスの蓄積が評価される。</li> <li>・身体活動調査2013の妥当性の検討研究には広い意義がある。</li> <li>・体力テストと糖尿病症状の関連研究結果がきれいである。</li> <li>・腸内細菌叢データベースの立ち上げが評価される。</li> <li>・骨密度検査に関する事故対応が誠実に行われている。</li> <li>・施策に寄与する研究者の育成という面での説明がなされなかった。</li> </ul>	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総エネルギー消費量、エネルギー必要量の観点から多くの研究がまとめられている。</li> <li>・十分な食事量があっても体重が低下する高齢者がいることは興味深い。</li> <li>・IoT活用の多施設共同群用比較研究において、活動先の分野に関われていることが優れている。</li> <li>・栄養ケアニーズの多い集団についてのエネルギー消費等の研究が優れている。</li> </ul>
5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に分かりやすい発表であり、興味深い結果が多く評価できる。</li> <li>・持久力、全身持久力の評価・推定が容易にできる方法の開発も引き続き行うことを望む。</li> <li>・腸内細菌研究は大変な研究であるが、現在医療分野での研究も進んでいることから、更に共同・連携した研究につなげていき、研究所からの成果が出ることを期待する。</li> </ul>	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設入所高齢者における喫食率と体重変化との関係は興味深い。調査にあるが、総エネルギー消費量に対する提供量には検討を要すると思う。</li> <li>・糖尿病患者の総エネルギー消費量の検討における医師からの指示エネルギー量にはインスリンの反応など病態も考慮されていることはないだろうか。</li> </ul>
3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大変多くの研究データを出しているが、今後の展開を考えると整形外科医との共同研究あるいは高齢者を対象とした研究が必要ではないか。</li> <li>・NEXISの研究、被験者は同一であるように受け取れるが、その場合の被曝量は大丈夫か。</li> </ul>	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂取エネルギーが十分なのに体重減少の件は摂取エネルギーの設定が低すぎることも含めて検討されたい。</li> </ul>
5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他のセクションに比べて人員が少ないが、分かりやすい成果が出ている。</li> <li>・説明がとても分かりやすい。男性のみ、女性のみ調査解析はなぜか。</li> <li>・全身持久力・体力テストと糖尿病発症リスクの評価は大変興味深い。一般に分かりやすい手法での啓発活動を期待する。</li> <li>・腸内細菌叢の健常者のデータベース化が出来たことは今後の解析結果に期待できる。</li> <li>・調査研究・業績は独自のものである。東京都は他府県と相違があるというのも興味深いものがあります。</li> </ul>	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・喫食率と体重変化について、完食しているにもかかわらず体重が減少するのはなぜか。解明を望みます。そもそも一人一人に合った摂取エネルギーか疑問ではある。</li> <li>・研究デザイン（1159名登録）の研究結果に期待する。</li> <li>・虚弱高齢者対象の研究は必須。期待する。</li> </ul>
3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明が分かりやすい。</li> <li>・成果の普及には分かりやすい発信が必要。全身持久力の簡易測定法と全身持久力向上の効果を分かりやすく発信してもらいたい。</li> </ul>	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べても体重が減っていく理由を是非明らかにしていただきたい。</li> </ul>
4.2		3.8	

平成30年度 外部評価委員会 委員コメント

臨床栄養研究部		食品保健機能研究部	
評点	コメント	評点	コメント
5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インパクトファクターの高い学術誌への掲載がされている。</li> <li>・食生活等についての総合データベースが構築されていたことに意義がある。</li> <li>・AST120についての興味深い知見が示された。</li> <li>・肥満がなぜ良くないかについて、動物実験で説明していくことに価値がある。</li> <li>・肥満と代謝・免疫等に関する基礎研究の科学的学術では意義が大きい。</li> <li>・時間栄養という新しい試みは重要である。食事による時間遺伝子の発現の差異、食事による現産量の案験子の確立など、進行が得られた。</li> <li>・ガイドラインの検証や食生活改善の推進に結びつけられていてなお良い。</li> </ul>	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・許可、買取、分析の外部精度管理に関する取り組みが着実である。分析方法の開発が意欲的である。</li> <li>・松油脂由来食品実験は示唆に富む。</li> <li>・サプリメント、服薬に関する適切な情報提供について知見が得られていて、有益な情報となっている。</li> </ul>
5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AST-120の研究は興味深い。慢性腎不全患者に対しても同様の調査が必要ではないかと思う。</li> <li>・時間栄養の基礎的な研究も行われており評価できるが、マウスから人体への研究につながっていくことを望む。</li> </ul>	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とろみ調整用食品は特別用途食品であるので、試験法の確立により精度に差の少ない製品が提供されることで、現場でのとろみの統一が行いやすくなる。今後に期待する。</li> <li>・情報提供から教育へは重要な点であり、研究所側から積極的な対応を期待する。</li> <li>・「健康食品」は一般の方においても関心がある内容であるので、膨大なデータの対応であるが、今後も正確な情報発信を望む。</li> </ul>
5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的を持って着実に進んでいる研究で、業績も十分である。</li> <li>・残念なのは、やはりヒトを対象としていない点。</li> </ul>	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの業務を十分に行っている。このまま継続してほしい。成果も十分である。</li> </ul>
5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合データベースの解析は今後さまざまに活用されていくことを期待する。</li> <li>・AST-120の腸内細菌叢や脂肪肝への役割には驚いた。マウスの結果ではあるが。</li> <li>・時間栄養研究について、肝臓における研究（高脂質食・高糖質）時間遺伝子の発現が異なるのは興味深い。</li> </ul>	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、子どものサプリメントと医薬品の併用実態に驚く。この実態結果を改善する方向につなげたい。母親には気軽に相談できる、分かりやすく教えてくれる場が必要と思われる。</li> <li>・健康サポート薬局とは何か。認証制度、薬剤師常駐、管理栄養士、必要義務等の「情報提供」をかみ砕いて一般人に伝える場であるならば、もっと分かりやすく、充実させてほしい。</li> </ul>
3.0	<p>AST-120の効果についてはヒトでの確認に進展することを期待する。</p>	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児用調製粉乳中の微量セレン分析法の開発について、新しい方法の利点を明確に説明した方が良い。</li> </ul>
4.6		4.0	

平成30年度 外部評価委員会 委員コメント

国際栄養情報センター	
評点	コメント
5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民の健康寿命延伸のための統計研究が優れている。</li> <li>・リンケージの可能性は情報活用として重要である。</li> <li>・国際比較研究がなされているが、これが所掌にあった研究テーマだと考える。</li> <li>・災害栄養の取り組みは卓越している。</li> <li>・国際産学連携センターから引き続いての活動が実施されている。</li> </ul>
5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際協力が幅広く、100%行われており評価できる。</li> <li>・国際災害栄養に関して、避難所における弁当提供の有用性の検討は見逃しがちな内容であるが、現場では重要な問題となることであり、保健所災害ガイドラインへ組み込まれたことは評価できる。</li> </ul>
3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本センターは難しいと思われる。国際と名がつき、これまでの業務も行っているため、まとまりが分散しているように思われる。国際災害情報なら他国の良い点・悪い点、日本の良い点・悪い点を明らかにすべきであるが、それが感じられない。国際災害栄養研究も、国際はほとんど感じられない。もう少し絞っても良いように思われる。</li> </ul>
5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際保健統計について、21C出生児縦断調査は今後どのように成果を上げていくのか興味深いと思う。</li> <li>・国際災害栄養について、栄養格差減少、被災地の栄養不良のリアルタイム分析は有意義。2時間が3分に短縮されたことはすごいと思う。</li> <li>・後方支援（要配慮者・赤ちゃん液体ミルク許可）もやっと現実のものとなったと評価します。</li> </ul>
3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害栄養の貢献はもっと広く知ってもらい、活用していただきたい。</li> </ul>
4.2	

平成30年度国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所  
外部評価委員会健康・栄養研究分科会 委員名簿

氏名	所属機関名及び職名
逢坂 哲彌	早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構 名誉機構長 特任研究教授
加藤 則子	十文字学園女子大学人間生活学部幼児教育学科 教授
川島 由起子	長野県立大学 健康発達学部 食健康学科 教授
近藤 和雄	東洋大学食環境科学部健康栄養学科 教授
下光 輝一	公益財団法人健康・体力づくり事業財団 理事長
鍋谷 浩志	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構食品研究部門 部門長
三保谷 智子	女子栄養大学香川昇三・綾記念展示室 課長

敬称略、五十音順

任期:委員の委嘱承認の日から令和3年3月31日(2年)